女子曲線は男子のそれを遂に超えてゐないが、本表では十四歳に於て凌駕する。人種差に就ては略す。

四　頭形の發育に就ては原氏の報告がある。同氏によると日本人は七歳より二一歳の間に於て、年齢の進むに從ひ比較的短頭より比較的長頭に向ふと云ふ。

五　下肢長の發育に就ては前記田原氏の研究がある。

六　骨骼形態の發育に就ては西塚、伊藤氏等の研究がある。又骨端等の化骨の年齢的研究に就ては藤浪氏一派のレントゲン學的研究及び化骨點に就ては速水氏等の研究がある。

七　老衰及び命數　日本人の老衰に就て一般的研究あるを知らぬ。身長、體重の低下年齢等に就ては前文を參照されたい。其他、軟骨の化骨、骨癒合等に依つて部分的比較が可能である。日本人命數平均に就ては保險會社の報告等が種々あるが、從來の平均命數の取扱ひは不確實であつて本現象を說明するに充分なものがない。

第二章　日本人の人種心理學

(Rassenpsychologie der Japaner)

心理學的部門に於ける遺傳現象として顯著なるものは智能素質及び氣質である。精神活動の初發、持續、老衰の年齢的關係も亦問題となり得る。

一　智能　日本人智能素質の檢査は一般的には行はれてゐない。松本氏によるとダルシー(M. L. Darsie)が米國大都市在住日本少青年の智能計測を行つた結果は其智能商九九・二點、小都市在住者八七・六點、米國少青年九〇・

二點であつた。この成績は北歐人に稍〻劣るが北米人等に匹敵し、アルプス人、地中海人等に勝る。又國語力の關係なき方法で測定した結果は日本少年七九・五點、米國六八・三點、伊太利五四・〇點、西班牙五二・七點、葡萄牙五二・五點を得た。東京在住兒童と米國兒童との比較は左の如くである。

年齡	東京兒童得點平均	米國兒童得點平均
8	—	38
9	56	58
10	79	75
11	100	90
12	119	101
13	116	112
14	128	123

即ち一般に日本兒童は彼に比して優れてゐる。

二　氣質　日本人氣質の一般的統計も難事であつて未だ行はれてゐない。最近の心理學會にて淡路氏は日本人女性の他人種に比し著しく外向的氣質者多き事を發表した。然るに他方古川氏は血液型と氣質との間に一定關係ある點に着目し、所謂民族性係數 $\frac{O+B}{AB+A}$ に依つて人種氣質を判定せんとした。同氏によると本係數の大なるは比較的外向的、小なるは內向的性向を有する。筆者は歐洲各人種及び黑人等に就て或程度迄本方法の當れる事を認めたが、之を日本人一般に應用するとその係數は世界人種中北歐人に次いで小さい。即ち日本人は著しく內向的性狀を有する事になる。左表は前記第四十七表と同一材料に依る比較である。但し本係數の價値に就ては尙今後の研究を必要とするものがあるであらう。

北歐人	0.839
日本人	1.038
猶太人	1.133
アルプス人	1.152
地中海人	1.565
支那人	1.947
黑人	2.355

三　日本人精神活動の初發及び持續老衰に就ては、科學的研究のあるを知らない。古くケムペル (E. Kaempfer) は豐臣秀吉を例として日本人天才の精神力の涸渴すること早きを評してゐる。又一般常識的見地より日本人の精神的早老を云ふものがあるが、之等の觀察は必ずしも當にはならぬ。

主要文獻

(一) **人種學一般**

長谷部言人、自然人類學概論。東京(昭和二年)。

小山榮三、人種學(總論)。東京(昭和四年)。

Martin, R.: Lehrbuch der Anthropologie. 2. Aufl. Jena (1928).

Scheidt, W.: Allgemeine Rassenkunde. München (1925).

(二) **日本人體質一般**

足立文太郎、日本人體質之研究。東京(昭和三年、本書中には同氏の邦文論文全部及び歐文論文の目錄がある。以下本書中所載の文獻を略す)。

足立文太郎、人類雜、**四三**(昭和三年)。

Baelz, E.: Mitt. d. deut. Ges. f. Nat.- u. Völk. Ostas., **4** (1884-88).

Baelz, E.: Zeitschr. f. Ethnol., **33** (1901).

長谷部言人、東人雜、(明治四十二—四年間の文獻鈔錄である。以下本鈔錄中に鈔出の文獻を略す)。

石井正、日本人青年男子の體格標準。東京(大正十五年)。

小金井良精、人類學研究。東京(大正十五年、本書中には同氏邦文論文の全部及び歐文論文の目錄がある。以下本書中所載の文獻を略す)。

Nagai, S.: Biol. d. Person, **11** (1928).

鈴木文太郎、人類系統解剖學。東京(大正九年)。

(三) **日本人の生體解剖學**

秋田善雄、東醫雜、**四三**（昭和四年）。
雨森一郎・原豐夫、東醫雜、**一三**（明治三十二年）。
新谷二郎、國民衞生、**八**（昭和六年）。
長谷部言人、東北醫雜、**二**（大正七年）。
Hasebe, K.: Arb. a. d. Anatom. Inst. Sendai, **1** (1918).
長谷川卯三郎、東醫雜、**三九**（大正十四年）。
石川信男、人類雜、**三七**（大正十一年）。
久保武、朝鮮醫會雜、一六、一八、二〇、二一。
Matsumura, A.: Journ. of the Facul. of Scien. Imp. Univ. of Tokyo, Sect. V. Anthrop., **1** (1925).
三輪德寬、東人雜、**四**（明治二十一年）。
師岡浩三、解雜、**三**（昭和六年）。
緒方正清・高橋辰五郎、東醫雜、**一〇**（明治二十九年）。
緒方正清、東醫雜、**一五**、**一六**（明治三十四年）。
岡本晴一、解雜、**一**（昭和三年）。
大西克知、日眼科會雜、**三**（明治三十二年）。
大杉清、耳鼻咽喉京都臨、**一四**（大正十年）。
大山稻三郎、保醫雜、**二三**（大正十三年）。愛知醫會雜、**三三**（大正十五年）。
鈴木文太郎、東醫雜、**一九**（明治三十八年）。
田原盛、福大雜、**一七**（大正十三年）。

山浦克己、解雜、**三**（昭和六年）。
吉田章信、社醫雜、四七八（大正十五年）。

（四）**日本人の骨骼解剖學**

長谷部言人、人類雜、**三二**（大正六年）。
Hasebe, K.: Zeitschr. f. Morph. u. Anthrop., **15** (1913).
平井隆・田幡丈夫、人類雜、**四三**、附一、二（昭和三年）。
喜々津恭胤、人類雜、**四五**、附四、一一（昭和五年）。
岡本規矩男、金醫大解教業績、**一**（昭和三年）、**二**（昭和六年）。
岡本辰之輔、人類雜、**四五**、附九（昭和五年）。
宮本博人、人類雜、**三九**（大正十三年）、**四〇**（大正十四年）、**四二**（昭和二年）。
Miyamoto, H.: Acta Sch. Med. Univ. Imp. Kioto, **5** (1926)
中野鑄太郎、十全雜、**一八**（大正二年）。
西謙一郎、解雜、**一**（昭和四年）。

（五）**日本人の軟部解剖學**

Adachi, B.: Das Arteriensystem der Japaner. Kioto (1928).
安達島次、臺醫會雜、二三九（大正十四年）。
Fuse, G, Yamamoto, M.: Arb. a. d. Anat. Inst. Sendai, **6** (1921).
羽太鋭治、日泌尿會雜、**六**（大正六年）。
長谷部言人、北越醫雜、**二九**（大正三年）。

原正、東醫雜、二七（大正二年）。
稗田五郎、醫學研、一（昭和二年）、三（昭和四年）。
Hirasawa, K: Acta Sch. Med. Univ. Imp. Kioto, 11 (1923).
星騰吉、東北醫雜、九（大正十五年）。
星三藏、東北醫雜、一一（昭和三年）。神經雜、三〇（昭和四年）。
堀澤治吉、東醫雜、三〇（大正五年）。
猪子吉人、東醫雜、五（明治二十四年）。
飯島尙、近畿婦會雜、七（大正十三年）、八（大正十四年）。
石川信男、大正婦學會報、一〇（大正十年）。近畿婦會雜、六（大正十二年）。
金關丈夫、第三十四回日本解剖學會（大正十五年）。
唐澤光德、兒科雜、七三（明治三十九年）。
木原卓三郎、京醫雜、一九（大正十一年）、二〇（大正十二年）。
木崎正美、大阪醫會雜、一六（大正六年）。
喜多豪、解雜、三（昭和六年）。
北川正惇、皮泌尿雜、一六（大正五年）。
河野通成、東醫雜、四三（昭和四年）。
久保武、東醫雜、一七（明治三十六年）、二〇（明治三十九年）、二一（明治四十年）。
工藤得安、北越醫雜、三二（大正六年）。
Kudo, T.: Acta Sch. Med. Univ. Imper. Kioto, 2 (1917).

黑川揚鷹、日病學會雜、**一〇**（大正九年）。
忽那將愛、解雜、**三**（昭和五年）。
Kutsuna, M.: Jap. Journ. of Med. Sc. I. Anat., **2** (1930).
正井保良、東醫雜、**二八**（大正三年）。
宮原虎、人類雜、**三四**（大正八年）。
望月周三郎、慶醫、**五**（大正十四年）。
長與又郎、吳教授記念論集、**一**（大正十四年）。
西謙一郎、第三十二回日本解剖學會（大正十三年）。
西村庚子、大日耳鼻咽會報、**三六**（昭和五年）。
小川睦之輔、京醫雜、**一一**（大正四年）、**一五**（大正七年）。
岡本規矩男、中外醫新、**七**（大正七年）。京醫雜、**一七**（大正九年）。
大久保九平、東北醫雜、**六**（大正十一年）。
小野智三郎、北越醫雜、**三一**（大正五年）。
大澤岳太郎、東醫新誌、**七一七**（明治二十四年）。
大家武夫、東北醫雜、**七**（大正十二年）。
齋藤護邦、滿醫雜、**三**（大正十四年）。
佐々木宗一、京醫雜、**一八**（大正十年）、**一九**（大正十一年）。鎭西學、一九八（大正十二年）。
Shimada, K.: Act. Sch. Med. Univ. Imper. Kioto, **3**, **4** (1921-22).
杉田定一、東北醫會報、**七六**（大正三年）。

主要文獻

田口和美、神經雜、**一**（明治三十五年）。
植苗福次郎、解雜、**一**（昭和三年）。
安田他六人、福醫雜、**一一**（大正七年）。
横山有五、中外醫新、七五六（明治四十四年）。
吉永虎雄、東醫雜、**二三**（明治四十二年）、**二九**（大正四年）、**三〇**（大正五年）。
吉川精一、京醫雜、**二〇**（大正十二年）。
吉澤五郎、解雜、**二**、**三**（昭和四、五年）。

（六）日本人の生理學及び心理學

Akiba, T.: Fol. Anat. Jap., **2** (1924).
Darsie, M. L.: Comp. Psych. Monog., **3** (1926).
藤原鐵太郎、眼科雜、**二**（明治二十八年）。
藤浪剛一、中外醫新、七七九（大正元年）九三八、九三九（大正八年）。
古畑種基、犯罪雜、**二**（昭和四年）。日學術協報、**四**（昭和三年）。
古川竹二、社會醫雜、五〇四（昭和四年）。生理研、**六**（昭和四年）。
羽柴雄輔、東人雜、**八**—**一四**（明治二十六—三十二年）。
速水寅一、京醫雜、**二七**、**二八**（昭和五、六年）。
林友太郎、中外醫新、五三四—五三七（明治三十四—三十五年）。
石川日出鶴丸、國民衞生、**一**（大正十二年）。生理研、**一**（大正十三年）。
石川信男・野平安藝雄、皮科紀、**八**（大正十五年）。

伊藤隼三、中外醫新、一〇〇三（大正十一年）。
岩佐大治郎、東醫雜、**二九**（大正四年）。
金關丈夫、生理研、**六**（昭和四年）。
北原、醫事新、五九二（明治三十五年）。
國友鼎、第三十二回日本解剖學會（大正十三年）。
松本亦太郎、素質の心理。東京（昭和四年）。
正井保良、東醫雜、**二八**（大正三年）。
楢崎淺太郎、心理研、**三**（大正二年）。
岡田清三郎他三人、東醫雜、**三六**（大正十一年）、**四〇**（大正十五年）。
大西賤雄、東醫雜、**二九**（大正四年）。
柴山幸一、東北醫雜、**三**、**四**（大正七年）。
染川福治、大阪醫會雜、**一六**（大正六年）。
杉浦清、生理研、**五**（昭和三年）。
田原盛、福大雜、**一七**（大正十三年）。
高橋孝太郎、東醫雜、**三七**（大正十二年）。
高梨義景、國民衞生、**三**（大正十四年）。
種村弋、醫中央雜（大正六年）。
田代義德、東醫雜、**二一**（明治四十年）。
山本、鎭西醫、八二七（大正八年）。

柳金太郎、東醫雜、**三八**、**三九**（大正十三年）。
吉田章信、人類雜、**四二**、**四三**（昭和二、三年）。

以上の他に本文中に引用されたものは、
日本醫事索引（東京）、
醫學中央雜誌（東京）、
醫學原著索引（奉天）
等によつて檢索されたい。なほ日本人體質に關する論文は
人類學雜誌（東京）、
解剖學雜誌（東京）、
Folia Anatomica Japonica（東京）
等、人類學、解剖學の專門雜誌の他、各大學の醫學部、各醫科大學、醫學專門學校、齒科醫專及び各地方醫學會等の機關雜誌により發表せられることが多い。又生體に關する統計は文部省等の統計報告、社會醫學雜誌、保險醫學雜誌、軍醫團雜誌等各團體の機關雜誌にも屢〻發表せられてゐる。

圖版解說

（七歳、日本人、女兒、ベルツ『東亜人種』より）

これを見ると二重の興味を感ずる。ベルツが之を見た時の興味を繰り返すのが一つ。今一つはベルツが之を東洋人の特質と感じた諸點即ち背部毛環、蒙古斑等は、今日の知見では最早東洋人の特質ではなくなつたこと、即ち過去三十年間に於ける世界の人類學的知識の向上に對する興味である。